



脱炭素に向けて
(役場木質ペレットボイラー)

脱炭素

取り組みの状況は

多岐にわたり実施



塩野入 猛 議員

問 2050年に向けて、国はカーボンニュートラルを宣言、県も気候非常事態宣言、更に本町を含む長野広域圏がゼロカーボン宣言を発出した。こうした中で、町の脱炭素への取り組み状況と目指す目標は。また、脱炭素という極めて重要な課題に対する町の思いは。

町長 2050年ゼロカーボンを目指す包括的な宣言を提案し、圏域共同での宣言が実現したところでもあり、非常に重要な課題と考える。国、県、広域圏との連携をとりながら、地域全体の脱炭素を図るとともに、個人や家庭、民間企業などの取り組みを後押しできる仕組みの検討など、2050年ゼロカーボンに向けた取り組みを推進したいと考えている。

企画政策課長 ゼロカーボンに向け、エネルギーに関する取り組みだけでなく、ごみ減量、人・社会・環境に配慮した消費行動「エシカル消費」、地域交通整備、植育樹祭の森林保全など豊かな自然を守りCO2の吸収など多岐にわたる取り組みを実施している。達成に向けて、排出量の削減と吸収量の拡大を図るため、エネルギー分野のほか全庁横断で、多角的・多面的な取り組みを進めていきたい。

非核平和

平和学習の今後は

各事業実施を検討



山城 峻一 議員

問 今年2月24日にロシアによるウクライナへの軍事侵攻が始まり、ロシアは核兵器使用の可能性すら示唆している。町は1985年に非核平和の町宣言をしたが、宣言制定までの経緯は。

町長 1984年に結成された連絡協議会により、宣言を求める署名活動が全町で行われ、有権者の約半分、町民6千名の署名が町と議会に届けられたことが契機となった。

問 平和に向けた町の取り組みの現状と今後は。

町長 原爆が投下された日に半旗の掲揚や投下時刻に合わせサイレンを鳴らし、町民とともに黙とうなどを行っている。今後、新型コロナウイルスが収まった際には、講演会や現地学習会などを行い、将来に向けて平和の大切

さを学び、伝えていく取り組みを行いたい。

問 児童生徒に対する戦争や平和を学ぶ機会をつくるため、無言館や松代大本営、阿智村の満蒙開拓記念館などの見学に行くのはどうか。

教育長 施設等へ行くことも大事であるが、まずは戦争の悲惨さを教える前に平和の素晴らしさを伝えることが大事と考える。現地へ行けなくても他の取り組みで補ってきたい。

非核平和の町宣言

野に 花が咲き
山に 鳥が鳴き
まちには 緑がいっぱい
ここには 私たちの幸せがある
いま地球をおおう核兵器は
愛するすべてのものを滅亡させてしまう
ヒロシマ ナガサキを
くり返してはならない
いまこそ 私たちは
核兵器の根絶を願う
私たちの町にいかなる核兵器の
配備も 飛来も 通過も 許さない
緑豊かなスポーツと福祉の
美しい 田園工業都市
平和で幸せなまちを実現するため
ここに坂城町を非核地域とし
非核 平和の町を宣言する

町民の意志を汲む「非核平和の町宣言」